

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立入間向陽高等学校)

目指す学校像	「ひたむきに、おおらかに、たくましく」未来を生き抜く心身ともに健全な若人の育成
--------	---

重点目標	1 授業改善及び学習習慣の確立を通じた学習意欲の向上 2 行事等の実践を通じた自律的・基本的生活習慣の確立 3 生徒一人一人に即した進路選択とその実現 4 保護者参加と中学校・地域との連携強化による協力支援体制の確立
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 3名 生徒 33名 事務局 (教職員) 11名
-----	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価	
年 度 目 標					年度評価 (1月21日 現在)		実施日 平成 28年 1月 29日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>・授業態度は、大変落ち着いており、集中して課題等にも取り組んでいる。継続して行っているアンケート結果より、半数以上の生徒が授業の理解はできていると回答しており、この傾向に特に大きな変化は見られない。一方教員側も、生徒の実態を踏まえ理解を深めるため工夫や生徒の意欲を引き出す授業を実践している。</p> <p>・調査前の学習については、大半の生徒がよく取り組んでいる。しかしながら、予習・復習など日常的な学習については、不足している生徒が多く、授業の「受身」的傾向は、大きくは変わっていない。</p> <p>・進路意識は、徐々に高まりつつあると言える。特に進路に関係する科目選択については、進路と結び付けさせながら、学習意欲の向上にも結び付けていくことが大切になってくる。</p>	基礎的・基本的事項を重視した授業改善の取り組み	<p>・生徒・教職員アンケート結果を踏まえて、より興味・関心を持たせる授業・わかりやすい授業への創意工夫していく。</p> <p>・家庭学習習慣化のための宿題・課題等の生徒への提示、生徒の取り組みへの評価を通じたフィードバックを行う。また、初期学習指導をはじめとする学習習慣確立の取り組みを進路指導とタイアップして年間を通じて行い、「学ぶことの意味」「学習方法」等を考えさせ、学習の動機付けを行う。</p> <p>・科目選択にあたり、進路と結び付けられるような情報提供と指導を工夫する。</p>	<p>・生徒の授業アンケートの分析など職員研修を行い、教員間の共通理解を深め、授業改善への課題を明確にすることができたか。</p> <p>・定期考査や長期休業明けのテストによって、家庭学習の習慣化を検証するとともに、評価を通じてフィードバックができたか。</p> <p>また、初期学習をはじめとする学習習慣確立の取り組みが、生徒の実態とかみ合って実施できたか。</p> <p>・科目選択に関し、生徒へ適切な情報提供と指導が行えたか。</p>	<p>・授業アンケートの結果では、昨年度同様「とても理解できる」「まあまあ理解できる」が全体の6割を占め、授業のレベルについても「現状のままでよい」が7割を超えており、生徒の実態に合った授業が行われていることがわかるが、授業の予習復習をしている生徒は少数に留まっております、学習の習慣化が本校生徒の課題であることが明確になった。</p> <p>・一方、「テスト前にもう一度内容を整理している」「板書以外にもメモをとったりして自主的に理解を深められるようにしている」という生徒の数がわずかに増加しており、初期学習指導をはじめとする地道な取り組みが少しずつ生徒の意識を変えつつあることも確認できた。</p> <p>・ガイダンスの実施により、科目選択についての、1、2年生への情報提供は適切に行われた。</p>	B	<p>・引き続き生徒へのアンケートを実施して生徒の意識・実態を把握し、職員間の共通理解を図りながら、職員各々が授業改善への方策を模索し、有効な指導方法についての情報を共有していく。</p> <p>・生徒の学習習慣の確立と意欲向上への一層の取り組みが求められる。具体的には、1年生に対しての「初期学習指導」を引き続き実施していくとともに、年度の途中で、自らのそこまでの学習の振り返りと今後への課題を自覚させる機会を設けるなどの取り組みが考えられる。生徒達の現実的な要望に応えつつ、同時に、学ぶ楽しさ・おもしろさを体験させる授業実現への工夫と努力、情報の共有が重要である。</p> <p>・引き続き丁寧な選択科目のガイダンスを実施し、選択科目を考えることを通して自らの進路についての意識を高め、それが更なる学習意欲の向上につながるよう指導していくことが重要である。</p>	<p>・アンケートにもあるように興味を引く、面白い授業を求めるが、授業中にコミュニケーションをとれる授業を求めたい。その中で「何故学ぶのか」を時々語って欲しい。</p> <p>・分かりやすい授業と分かる授業は違う。必要なことは、情報量を落としたり、単純化してわかりやすくすることではなく、授業の内容に係る予習などの準備をしっかり行って行うもので「記憶する」ことを目的とせず、問題を解決する力を大切にする授業である。</p> <p>・初期学習指導で学び方や教育実習生の体験を聞いたことは、勉強する意味、進路や自分の将来について改めて考えるよい機会となった。</p>
2	<p>・生徒たちは落ち着いた学校生活を送っている。服装規定も概ね守られており挨拶もよくできる。地域や中学校からも基本的生活習慣について高い評価を得ている。</p> <p>・新入生歓迎会、体育祭、向陽祭、三年生を送る会の企画・立案・運営を生徒が組織的に運営するスタイルが定着している。また、HRに呼びかけ、全校生徒が積極的にかかわる「参加型の行事づくりは、全校生徒に浸透している。生徒アンケートでも「向陽高校の一番の魅力」について「行事が盛んである」が第1位となるなど行事への期待が依然</p>	生徒一人一人の個性に即し、人間として望ましい資質の伸長を図る。	<p>・教員間の共通理解と協力体制の確立 (特に服装指導・挨拶励行、時間厳守について)</p> <p>・朝の立哨指導、授業開始時の巡回の継続、定期的な頭髪服装指導の実施</p> <p>・社会生活におけるマナー向上の指導の一つとして情報セキュリティ研修会を企画し、SNSの問題に取り組む。</p> <p>・HRを基礎として生徒会本部・各委員会が論議を深め、組織的な運営を推進。</p>	<p>・共通理解と協力体制をつくることができたか</p> <p>・立哨指導、巡回指導が継続的に実施できたか</p> <p>・教員の共通理解のもと、生徒との信頼関係に基づいた指導ができたか。</p> <p>・効果的に研修会が実施できたか。</p> <p>・生徒会活動が全校生徒の参加を視野に入れて原案作成、提案、実施を組織的に運営できたか。</p>	<p>・生徒の情報共有するようにつとめ、生徒指導部・担任の連携を強化した。</p> <p>・日々の校門指導、授業開始時の巡回指導は全教職員の協力を得て継続することができた。落ち着いた教育環境を維持できた。</p> <p>・新たな問題としてSNSの問題がでてきたが、研修会等を実施することで問題の拡大を防止できた。</p> <p>・3年生を送る会では、1、2年生全クラス・全員による合唱を行い、体育祭では、体育祭実行本部会を中心に各参加団体と連携して組織的な運営を行った。各行事で全校生徒を視野に入れた「全校生徒参加型」の</p>	A	<p>・落ち着いた教育環境を維持するため全職員の協力体制を維持させていくことが重要である。</p> <p>・挨拶の励行等社会生活におけるマナーの向上をはかる指導を継続させていくことが重要である。</p> <p>・SNS関連の問題がまだ続いている。研修会を定期的に開き注意しているが問題が完全にはなくなっていないので指導を継続し問題の根絶をはかっていきたい。</p> <p>・生徒会が中心になり厳案を作り、運営を行い「参加型」の行事をを創ることは大切なことである。今後、より一層「全校参加型行事」を発展させていくためには各行事の目的や内容について議論を深めていくことが求められている。</p>	<p>SNSやツイッターの研修会は、その危険性や使用方法について学ぶことが多く、今後も続けて欲しい。あいさつをする生徒は、多いが、気持ちのいい挨拶を自然に行うためには、教職員と生徒の相互の日常的なコミュニケーションが大切であり、より深めて欲しい。スカートの丈に関する指導や靴下の色の指導については、その必要性が伝わり、理解を深めていくことが必要である。</p> <p>・行事にしっかりと取組んでレベルも高くなっているが、全校参加型の行事を企画することの意味を深めていくことが大切であり、生徒会としてもそこで学んだことを次に活かして欲しい。</p>

	<p>として高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートを受けて、食堂との協議を行うなど、生活環境を向上させていくための取り組みが進んでいる。新聞や地元のFM放送等にも取り上げられている。 ・部活動が盛んで8割程度の生徒が3年間部活動を継続している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会部と担任が連携して LHR を基礎にさし氣的に行事に取り組めるよう指導する。 ・アンケートや生徒総会で意見を踏まえて、生徒会として関係部署と協議できる機会の推進 ・意欲、向上心を高める部活動の推進とそのため環境整備の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見を踏まえて協議をもつことができたか。 ・部活動加入率の維持向上ができたか。 	<p>行事を実現できた。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学食アンケートの結果や要望を伝え、学食との協議を重ねた。メニューの改善を行うなど、生活環境を向上させるための取り組みもできた。 ・今年度も昨年度同様、部活動加入者数は、8割を超えている。引き続き、全校をあげてのが活動加入率の向上をめざす意識を確立した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・食堂との話し合いに基づいてメニュー等を改善していく取り組みは重要であるが、マーケティング戦略を含めて学習・検討していくことが課題でもある。今後、さらに発展的に取り組むことを期待したい。 ・PTAとしても生徒の役に立つよう極力要望に応えられるようにしたい。
<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路について真剣に考えている生徒が多いが、より具体的な進路目標を持たせるために、さまざまな職業・職種に関する知識を深め理解する必要がある。 一方、ここ数年、一般受験の生徒は増えつつあるが、チャレンジすることを控え、安全圏を選ぶ傾向にある。そこで進路目標を高く設定できるよう進路指導を充実させる必要がある。 ・生徒自らが進路に関しての情報収集が可能となるよう、1年次から進路情報の提供に努める必要がある。 ・進路選択については、保護者への情報提供を行い家庭との連携を強めていきたい。 	<p>一人一人の生徒が主体的に進路選択に組み、進路目標を実現する進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次は自己理解を深め、家族や社会人の話を聞くことで将来の職業を意識させる。 ・2年次は進路見学会を通して上級学校や職業について知識を深め、進路目標を設定させる。 ・3年次は進路実現に向けて分野ごとのガイダンス、業者模試、進学補習、模擬面接などに主体的に取り組ませる。 ・実力テストや業者模試を実施し、各自の学力レベルを把握させ、進路目標設定の目安とする。 ・進路HR、進路ガイダンス等を利用して上級学校に関する情報を提供する。 ・進路だよりの配布、保護者向けの進路ガイダンス、三者面談などを通して保護者への情報提供を行い、家庭と協力した進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路行事、進路HR等を通じて進路への知識、理解が深まったか。 ・成績票の配布により生徒に学力到達レベル、目標を認識させることができたか。 ・実力テスト、模試の実施、進学補習について学力向上のための検討、見直しができたか。 ・進路指導室や進路情報誌の活用は増えたか。 ・教員の情報提供の環境を整備できたか。 ・受験方法、受験費用等について保護者が正しく理解できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の社会人講師の話、2年生の進路見学会、3年生の分野別進路ガイダンスの取り組みは、それぞれの学年に合ったものであり、進路意識を高めることに役立った。 ・一部の生徒は実力テストや模試にしっかり取り組み、3年生の中には早朝は教室、放課後は進路室で勉強する者も見られた。 ・生徒の学力を補うため、希望者には「受験サプリ」を紹介した。一部の生徒は定期的に活用し、受験勉強にも利用している。 ・進路指導室や進路情報誌を活用する者もいたが利用率は高くない。最近生徒は携帯端末ホやPCなどで個人的に進路情報を収集する傾向にある。 ・実力テストなどのデータを担任が進路指導で利用できるよう、ファインシステムの活用方法について教員向けの研修会を実施した。 ・保護者や生徒の要望に基づいて、1、2年の保護者は2月半ばに実施し、今後の進路選択にとって必要な事項を説明し共有化を図った。進路便りは、その時々に必要な情報を掲載し、1月までに5号発行した 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の社会人講師の話、2年生の進路見学会は今後も定着させたい。進路の日については実施時期などは検討課題である。 ・一般受験を希望する生徒に対する指導としてオープンキャンパス参加や学校見学などで意識付けするとともに、実力テストや模試などの受験準備について生徒の現状をふまえた具体的な工夫が引き続いての課題である。 ・生徒は携帯端末やPCなどで進路情報を収集する傾向にあるので、進路指導室のネット環境を整えるなど、進路指導室の有効活用を検討することが課題である。 ・データをファインシステム上で活用する方法について、教員間の共通理解を形成することが必要である。 ・進路保護者会、進路便りは保護者や生徒の要望を分析して中身を充実させ、保護者・生徒に的確な情報が伝わるようにしていく。 ・進路指導部がHPを活用して進路行事など取り組みの様子を発信していくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業人講話、進路見学会は、職業選択を考える上でとても参考になった。 ・進路関係のガイダンスもしっかりと進路を考える時間となっている。 ・進路選択をしていく上で1年生のときに聞いた3年生の受験の体験談がとても参考になった。身近な失敗談なども含め、参考となり、志望校を選ぶことができた。今後も是非、続けて欲しい。 ・スタディーサポートについては、より有効活用するためには、何故事前学習資料が大切なのか、スタディーサポートへの取り組みの意図をより丁寧に説明し、理解を広げることが求められている。
<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA・後援会の行事は、体育祭やマラソン大会の給水支援、正門前の花植えなど生徒の活動に直接関わる活動を行い、生徒理解を深める内容となっている。また、PTAが体育祭、向陽祭など生徒の様子をまとめたDVDを作成し卒業記念品として卒業生に贈るなどの取り組みも行われ、PTA活動を通じて保護者の学校参加が進められ、教育活動を支援する活動内容となってきている。 さらに、今年度は、部活動の視察を行い、予算的な支援を行う事業も予定されている。 ・入間陽高校をよくする会での教員、生徒、保護者、地域の意見交換は、それぞれの当事者性を持った内容で行われ、生徒の成長を励ます教育的な場として機能している。 また、学校の現状を多面的に捉え、相互理解が深まる場となる中で生徒の食堂メニュー改善の取り組みなど自治的な取り組みを育てる場ともなっている。 	<p>保護者参加に基づく地域に開かれた学校づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本部役員・各委員会の委員長と委員会担当の教員との連絡・協議を密にし、生徒理解を深めた学校の実情に基づいた取り組みとなるよう本部・各委員会の計画立案とその実行に関わっていく。 ・引き続き生徒を成長させることを中心に意見交換を行うとともに学校と保護者、地域の信頼と協力関係を深める運営を行う。 ・事前に協議内容について論点整理を行い、当日の進行が円滑に行えるよう取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本部・各委員会の計画立案に、その委員会の理事と委員会担当教員が組織的にかかわることができたか。 ・入間向陽高校をよくする会の意見交換の内容がアンケート等生徒の実情に基づくものであるとともにそれぞれ生徒、保護者、教職員に還元され、共通理解を深める取り組みが行われたか。 ・それぞれ事前に参加者と打ち合わせを行い論点整理ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本部委員会と担当教員が諸会議、諸行事について連絡を取り合い、原案作成を行い、計画から運営まで概ね順調に行うことができた。 体育祭、マラソン大会での給水活動、花植えなどの取り組みが定着し、部活動視察も実施され、部活動への支援策について検討が行われた。また、卒業記念品作成等の取り組みも引き継がれ、保護者の学校参加が促進された。 ・生徒要望アンケートの分析に基づき、意見交換を行った。PTA作成のDVDも上映され、学校関係者の学校参加が促進されている。また、生徒会では、「よくする会」での意見表明に向けて模擬討論と食堂との話し合いを行うなど準備と論点整理を行った。PTAでは、役員会等に報告が行われ、意見交換と生徒や学校の様子について共通理解が図られた。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給水活動や花植えは、定着し生徒理解にもつながっている。また、今年度実施した部活動視察も部活動で頑張っている生徒の姿と施設面での課題をPTA・後援会が把握する上で役立っている。こうした活動を進める中で役員外の方にも活動への参加が広がっている。今後もPTAの諸活動全般を通じて生徒理解を基礎に、PTA活動と学校の連携を深め、信頼関係を強めていきたい。 ・生徒アンケートの分析に基づき意見交換を続けることで学校の現状と変化を考えることができてきている。そのため、生徒理解を深める貴重な場となっている。「よくする会」への各HRやPTAからの傍聴参加もあり、徐々に広がりを見せている。 事前準備も生徒会やPTAで丁寧に行われ、それが当日の意見交換の質を高めている。意見交換の内容も具体的で身近な内容に絞られてきている。今後とも引き続き、丁寧な準備を行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給水活動や部活動視察など生徒が実際に活動する姿を見てきた。向陽高校が楽しい学校となるよう生徒会の生徒の意見も聞きながらPTA・後援会としてどう支援できるのか考えて行きたい。 ・意見交換する中で自分たち保護者も考えなければならないという思いが強くなった。生徒ばかりでなく先生方も、自分たちも成長できる場でありたい。様々なことが話し合われたが、学校側も、生徒も保護者も、それぞれの意図が相手に伝わるような努力が必要である。入間向陽高校をよくする会がこのような場となり、今後とも続いていくように期待したい。